

平成30年4月17日 第36回環境保全専門家会議

公開版

資料5

総合的・広域的な生息環境改善について

～①予防保全対策の実施状況～
(アユモドキ待避場所の整備状況)

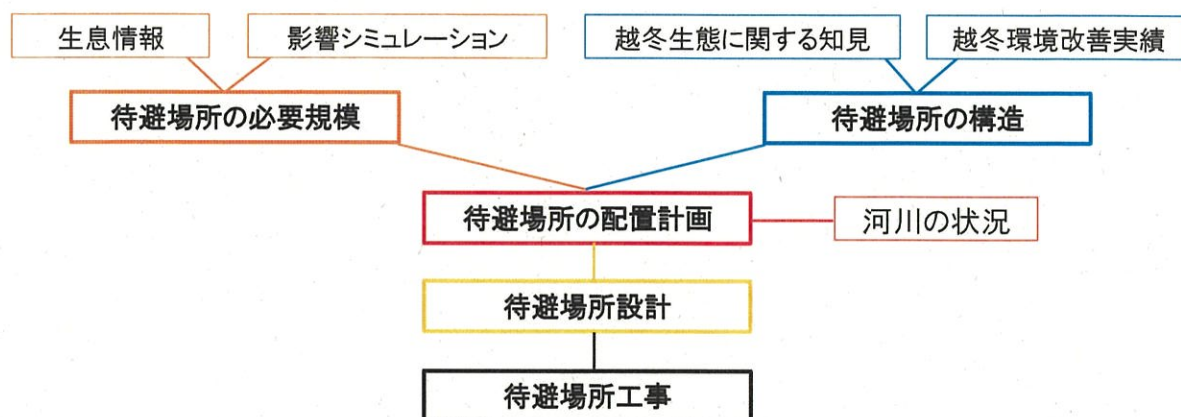
平成30年4月17日

京 都 府

1. 整備目的

アユモドキの予防保全の観点から「亀岡市都市計画公園及び京都スタジアム(仮称)の整備計画の策定にあたり考慮すべき基本方針 (Ver.3.1) [H29.7.14]」に基づき、アユモドキが隠れたり待避したりできる場所 (以下「待避場所」という) を拡大する対策を実施する。

2. 整備経過



H29. 7. 25	第 99 回 WG	これまでの待避場所の設置状況
H29. 11. 6	第 102 回 WG	待避場所の配置計画検討
H29. 12. 11	第 103 回 WG	待避場所の設計検討
H29. 12. 25	小 WG	待避場所の設計及び優先順位の検討
H30. 1. 29	第 104 回 WG	待避場所工事の検討
H30. 2. 22	工事指導	待避箇所及び構造の現地指導



H30. 2. 22 工事指導状況

3. 待避場所の配置計画、優先順位、工事実施箇所の選定 (: 工事実施箇所、 : 30年10月以降実施)

地点	内容	設置する待避施設のタイプ	待避場所の延長 (m)	優先順位			合計値の少ない順位の順位	評価	備考	検討結果 (H30.1.29 第104回WG)
				待避場所としての順位	越冬場としての順位	順位合計				
R1	掘削によるワンド復元待避施設の設置	石積み型、木工沈床型、かごマット型、置石型	70	3	4	7	3	A	湧水を得やすい。曹我谷川から近い。構造の選択が多い。R3と合わせて拡張性が高い。R2の整備が必須。	桂川に堆積した土砂の撤去により、下流護岸が水当たりとなり流出する恐れがあるため、下流護岸も含めた生態環境改善を検討することとしたため、30年10月(非出水期)以降の対応とする。
R2	浚渫による溜の復元期設している越冬環境の復元待避施設の設置	置石型 (復元される越冬環境: 石積み型、アンカー付きから石積み型)	30	1	1	2	1	A	魚が移動しやすい。溜まりやすい。湧水が多い。繁殖場に移動しやすい。既存の護岸を活用できる。	R1に影響がない範囲で実施 (延長20m)
R3	掘削によるワンド復元待避施設の設置	石積み型、かごマット型、木工沈床型、置石型	50	6	7	13	5	B	拡張性、構造の選択自由度が高い。湧水が得られる可能性が高い。R1とR5の整備が前提となる。	R3でD.Oの調査を行い、ワンドとしての可否を確認の上、R1と一体的に施工するため、30年10月(非出水期)以降の対応とする
R4	待避施設の設置	水制型、木工沈床型、袋型根固め型、置石型	10	10	8	18	9	C	湧水が得られる可能性が高い。洪水により短期間で失われる可能性がある。	洪水により短期間で失われる可能性があることから、実施しない
R5	待避施設の設置	置石型、かごマット型、木工沈床型、袋型根固め型	60	2	2	4	2	A	魚が移動しやすい。湧水が得やすい。水管部であり、潜在的な越冬適地。	R3に影響のない範囲で延長を伸ばして実施 (延長100m)
R6	待避施設の設置	置石型、連結ブロック型	50	4	9	13	5	B	影響範囲に近い。深部に設置しなければ効果が得られにくい。	洪水により置石の流出や置石流出に伴う舟運への影響の可能性があるため実施しない
R7	待避施設の設置	連結ブロック型、木工沈床型、置石型	100	5	3	8	4	A	蛇行外側の溜で、比較的水深が深い。水管部であり、潜在的な越冬適地。	樹木伐採を行わない範囲で実施 (延長15m)
R8	待避施設の設置	木工沈床型、かごマット型、袋型根固め型	20	8	5	13	5	B	河川合流部で、流入水を活用できる。	地形上可能な範囲で延長を伸ばして実施 (延長40m)
R9	砂州の浚渫による移動経路の改善待避施設の設置	置石型	30	7	6	13	5	B	右岸の潜在的な越冬適地活用に効果が見込める。短期間に土砂が堆積する可能性が高い。	退席土砂の撤去と併せて置石を実施 (延長20m)
R10	掘削によるワンド拡張河道の掘り下げによる個体の誘導待避施設の設置	石積み型、かごマット型、木工沈床型、置石型	50	9	10	19	10	C	湧水が得られる可能性がある。影響範囲に近いが移動しにくい場所。桂川の河床掘削を要する。	ワンドへの水路設置と置石を実施 (延長36m)
合計							470			231